

— 学 会 録 事 —

1. 日本藻類学会第8回春季大会

昭和59年3月31日、4月1日の両日、東京学芸大学新3号館において第8回春季大会が開催された。東京学芸大学が春季大会の会場となったのは第1回(昭和52年)、第2回(昭和53年)に次いでこれが3度目である。先の2つの大会では桜花の下で記念撮影できたが今年は例年になく寒く、大会2日目(4月1日)の朝にはみぞれが降り、急きょ電気ストーブを探すといった事態が起きた。しかし大会参加者は133名、講演数は53題(うち展示13題)に達し、まずは盛大な大会となった。また今大会は一つの試みとして、若手研究者を歓迎した大会であったが、多くの若手研究者の発表があり活気に満ちたものとなった。大会第1日目、一般講演終了後昭和59年度総会と懇親会が開かれた。懇親会には93名が出席され、会場が幾分狭くなったが、これがかえって会を盛大にした様である。会は岩本康三学会会長及び加崎英男大会会長の挨拶に続き、大会会場の責任者小林弘氏の乾杯で始まった。約2時間、極めて楽しい時間を過ごすことができた。その間、故岡村金太郎博士の御親戚筋の黒沼勝造氏から、博士59周年回想録編纂に対する協力要請がなされた。会は吉崎誠氏のしめの手拍子で幕を閉じた。

大会の開催に当り、大変御協力いただいた東京学芸大学教育学部生物学教室の各位、東邦大学理学部生物学教室の吉崎誠、宮地和幸の両氏に厚くお礼申し上げます。

大会・懇親会参加者：赤塚伊三武、秋岡英承、秋山優、鯉坂哲郎、阿部英治、有賀祐勝、安藤一男、飯間雅文、井鷲裕司、石川依久子、石川美樹、板垣正、市村輝宣、出井雅彦、伊藤市郎、伊藤広紀、糸野洋、井上勲、居平昌士、岩本康三、上山敏、内田悟、大島海一、大野正夫、大森長朗、大谷修司、岡崎恵視、岡田光正、岡部作一、小河久朗、奥田一雄、奥田弘枝、奥田稔、長田敬五、小野知足、笠井文絵、加崎英男、笠原均、鹿島薫、片山舒康、金子孝、川口栄男、喜田和四郎、木村純子、態野茂、黒沼勝造、高坤山、高原隆明、小林艶子、小林秀明、小林弘、今野敏徳、後藤敏一、斉藤俊一、斉藤英三、斉藤譲、桜井武麿、佐藤恭成、佐藤哲寿、佐藤哲麿、佐蔵滄也、佐藤浩之、佐野修、沢田明義、サントス・リガヤ、清水晃、鈴木秀和、鈴木三喜、須田彰一郎、須田昌宏、須永智、スリマノープラス・ウィタヤ、瀬戸良三、多

田匡秀、田中俊二、田中次郎、千原光雄、月館潤一、鄭濬、中嶋泰、長島秀行、中山克己、南雲保、名畑進一、新原義昭、新山優子、西澤一俊、西村巖、西村多美子、根本泰行、野崎久義、能登谷正浩、橋田順子、橋本達夫、服部洋子、浜田真実、浜野庸子、原成光、原慶明、原田慶宏、半田信司、富士由紀子、福島博、藤田大介、伯耆晶子、堀口健雄、本多正樹、本多素子、MAIRH, O. P.、馬家海、前田昌徹、正置富太郎、松江和則、松尾勝、松山恵二、真山茂樹、丸山晃、三浦昭雄、宮田益忠、宮田昌彦、宮地和幸、森宏枝、山岸高旺、山本裕子、横浜康継、良方一賀、吉崎誠、吉田忠生、吉武佐紀子、和田徳雄、渡辺恒雄、渡辺輝夫、渡辺信、綿貫知彦

2. 評議員会・編集委員会合同会議

第8回大会第1日目の3月31日(12:30~14:00)、東京学芸大学教育学部会議室で評議員会・編集委員会合同会議が開催され、昭和59年度総会に提出される議題について審議された。審議内容は後述の総会報告と重複するので、その項を参照されたい。

出席者：岩本康三会長、三浦昭雄編集委員長。秋山優、有賀祐勝、千原光雄、西沢一俊各評議員・編集委員。市村輝宣、月館潤一各評議員。小林弘、正置富太郎、吉田忠生各編集委員。岡崎恵視、今野敏徳、高原隆明各幹事。

3. 昭和59年度総会

昭和59年3月31日、東京学芸大学新3号館における第8回大会第1日目の一般講演終了後(17:00~18:30)に総会が開催された。岩本康三会長の挨拶に続いて、大森長朗氏(山陽学園短大)を議長に選出して議事に入った。

I. 報告事項

1. 庶務関係

(1) 会員状況(59年2月末現在)：名誉会員3名。普通会員508名。学生会員66名。団体会員50名。賛助会員12名。外国会員81名。購読は国内26件、外国45件。(2) 昭和58年度文部省科学研究費補助金「研究成果刊行費」100万円を受けた。また昭和59年度分として110万2千円の補助金を申請した。(3) 日本学会事務センターに59年度学会業務の一部を委託する契約が締結された。(4) 第49回日本植物学会大会会期中(8月

21日～24, 北大・教養)に恒例の集会(講演・懇親会)を開く計画がある。

2. 編集関係

(1) 昭和58年度に発行された第31巻1～4号は、総頁数285頁、掲載論文数は正論文38編(欧文22編, 和文16編)、短報4編(欧文1編, 和文3編)、合計42編であった。(2) 各号の印刷部数は1,100部、1～4号分の発行経費は3,628,413円(但し学会負担別刷代金を含む)、1頁当りの平均経費は12,731円であった。(3) 昭和59年度既発行分の32巻1号の掲載論文数は11編、2号以下に掲載予定の論文は審査中、改筆中のものを含めて28編である。

3. 会計関係

(1) 昭和58年度会費の納入状況は良好で、普通会员の納入率は92%、学生会員の納入率は79%である。(2) 昭和58年度一般会計、山田基金決算報告は昭和59年3月1日、齊藤英三(専修大・教養)、吉崎 誠(東邦大・理)の両監事により適正であることが認められた。

II. 審議事項

1. 庶務関係

(1) 廣瀬弘幸氏が名誉会員に推薦され、全会一致で承認された。(2) 第49回日本植物学会大会会期中に予定されている集会までに、次期会長予定者の選挙を実施する。(3) 昭和60年度文部省科学研究費補助金「刊行助成金」の申請を行う。

2. 編集関係

(1) 投稿論文の制限頁緩和に関する提案がなされ、英文論文については第32巻2号以降制限頁を8頁とすることが承認された。なお和文論文の制限頁は従来通り6頁に据えおくものとする。(2) 本部事務簡素化のために別刷代請求手続を日本学会事務センターに委託する。このための手数料(現行では別刷代請求1件につき1000円)は著者負担とすることが承認された。

3. 会計関係

(1) 昭和58年度一般会計決算報告、同監査報告。表-1のとおりで、承認された。(2) 昭和58年度山田幸男博士記念事業基金特別会計決算報告、同監査報告。表-2のとおりで、承認された。(3) 昭和59年度予算案(表-3)についての説明がなされ、質疑の後原案どおり承認された。(4) 山田基金の活用に関してはこれまで具体案が提起されていない。従来と同じように、本基金を会運営の円滑化のための運転資金として立替え使用する場合のあることが了承された。

4. その他

(1) 国際藻類学会会長から黒木、千原両氏宛に、第3回国際藻類学会議(1988年)の日本での開催について意向打診があった。この件に関する本会の態度を決めるため、検討委員会を設置した。検討委のメンバーは、会長、評議員、国際藻類学会世話人(正置、吉田、金子各氏)とすることが決まった。(2) 昭和60年度日本藻類学会第9回大会および総会を、本年と同じく東京学芸大学で開催することが決まった。

表-1 昭和58年度 一般会計決算報告

日本藻類学会

収 入 の 部 (円)		支 出 の 部 (円)	
会 費	3,564,496	印 刷 費	4,132,294
（普通会員	2,573,500	（印刷代	3,542,313
学生”	208,000	別刷代	590,630
外国”	247,146	編 集 費	258,864
団体”	355,850	（論文審査料	60,000
賛助”	180,000	英文校閲料	30,000
販 売	393,895	編集補助費	41,940
（定期購読	203,145	通信連絡費	126,924
バックナンバー	190,750	会誌発送費	196,800
別刷代	646,983	庶務費	455,385
超過頁負担金	60,000	（事務用品費	61,325
広告代	148,250	会議費	25,080
利 子	8,270	通信・印刷費	148,720
雑収入	19,376	事務整理補助費	15,000
刊行助成金	1,000,000	諸 雑 費	10,020
		幹事旅費補助	120,240
		幹事手当	75,000
		学会センター業務委託費	631,573
		第7回大会補助金	92,349
小 計	5,841,270	小 計	5,767,914
前年度繰越金	1,204,472	次年度繰越金	1,277,828
合 計	7,045,742	合 計	7,045,742

昭和59年3月1日

本会計決算報告は適正であることを認める。

昭和59年3月1日

日本藻類学会会長 岩本 康三 ㊟

日本藻類学会会計幹事 高原 隆明 ㊟

日本藻類学会会計監事 斉藤 英三 ㊟

日本藻類学会会計監事 吉崎 誠 ㊟

表-2 昭和58年度 山田幸男博士記念事業特別基金会計決算報告 (58.1.1~58.12.31)

日本藻類学会

収 入 の 部 (円)		支 出 の 部 (円)	
山田追悼号売上金(3冊)	16,500		
学金出版物売上金	4,700		
（コンプ論文集(1冊)	700		
日米セミナー(1冊)	4,000		
雑収入	255		
利 子	6,566		0
小 計	28,021	小 計	0
前年度繰越金	1,152,257	次年度繰越金	1,180,278
合 計	1,180,278	合 計	1,180,278

昭和59年3月1日

本決算報告は適正であることを認める。

昭和59年3月1日

日本藻類学会会長 岩本 康三 ㊟

日本藻類学会会計幹事 高原 隆明 ㊟

日本藻類学会会計監事 斉藤 英三 ㊟

日本藻類学会会計監事 吉崎 誠 ㊟

表-3 昭和59年度 一般会計予算案

日本藻類学会

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
会費	3,748,000	印刷費	4,550,000
（普通会員 (510)	2,550,000	（印刷代	3,750,000
学生 " (68)	238,000	別刷代	800,000
外国 " (80)	480,000	編集費	376,000
団体 " (50)	240,000	（論文審査料	66,000
賛助 " (12)	240,000	英文校閲料	60,000
販売	440,000	編集補助費	100,000
（定期購読	240,000	通信連絡費	150,000
バックナンバー	200,000	会誌発送費	200,000
別刷代	800,000	庶務費	592,000
超過頁負担金	200,000	（事務用品費	50,000
広告代	200,000	会議費	50,000
利子	10,000	通信・印刷費	240,000
雑収入	1,000	事務整理補助費	90,000
刊行助成金	1,100,000	諸雑費	12,000
		幹事旅費補助	75,000
		（幹事手当	75,000
		学会センター業務委託費	650,000
		第8回大会補助	100,000
小計	6,499,000	小計	6,468,000
前年度繰越金	1,277,828	予備費	1,308,828
合計	7,776,828	合計	7,776,828

表-4 日本藻類学会 第7回大会 (58.7.25~7.26) 会計報告

日本藻類学会第7回大会準備委員会

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
大会参加費	116件 232,000	プログラム表紙印刷代	45,000
（予約申込	2,000円 105件 210,000	学会会場借上料	70,000
当日申込	2,000円 11件 22,000	アルバイト代	54,000
懇親会参加費	103件 206,000	懇親会会食代	454,120
（予約申込	2,000円 92件 184,000	雑費	46,229
当日申込	2,000円 11件 22,000	学会補助金返却金	7,651
参加費超過分	1,000円 2件 2,000		
広告料	10件 140,000		
	（10,000円 6件 60,000		
	20,000円 4件 80,000		
学会補助金	100,000		
合計	680,000	合計	680,000

昭和58年12月22日

日本藻類学会 第7回大会幹事

館脇正和 ㊞

新 入 会

住 所 变 更

退 会

丸伊 満（北海道），森江晃三・薬師寺英次郎（東京都），黒川真弓（神奈川県），造力武彦（大阪府），西川 博（長崎県），中村 直（沖縄県），協和発酵工業（株） 農水産開発部（賛助会員）